

令和4年第420回信濃町議会定例会12月会議会議録(2日目)

(令和4年12月9日 午前10時55分)

●議長(佐藤武雄) 休憩前に引き続き会議を開きます。

通告の2、北村富貴夫議員。

- 1、物価高騰に伴う農業のこれから
- 2、子育て支援策の考え方は
- 3、今後の行財政改革の考え方は

議席番号1番、北村富貴夫議員。

◆1番(北村富貴夫) はい。おはようございます。議席番号1番の北村富貴夫でございます。質問させていただきます、どうぞよろしく申し上げます。質問が多くボリュームがありますので、答弁は簡潔明瞭で分かりやすくお願いいたします。質問の内容によっては順番が前後することがありますので、その辺もよろしくお願いいたします。それでは通告に沿いまして最初にですね、物価高騰に伴うこの農業への影響についてのお伺いです。今年の新米が5パーセント物価が上がったと報道されています。生産コストが増え、町では1反歩5000円の助成をして米農家への支援を行いました。米の消費量は減り続けているということですが、2021年は一人当たり52キロ、まあ1俵にも満たなくなっています。1962年は118キロという報道がありました。世界的な穀物需要の増加やエネルギー価格の上昇に加え、ロシアによるウクライナ侵攻等の影響により、化学肥料原料の国際価格が大幅に上昇し、肥料価格が急騰しています。町長のあいさつにも、新型コロナウイルスの感染拡大等で大きなダメージを受けた地域産業及び家庭生活の再生をはかるため町独自の支援策を検討したいと述べました。肥料等の高騰に支援策を続ける事が必要かと思えます。補正予算で令和3年の確定申告から390人の収入に応じて農業者に支援、そして酪農家への支援として国と県から牛1頭につき1万円、町として1万円を上乗せしていこうということで支援をしていくとのことですが、今後ですね、農業者等への更なる支援、そういうものを上乗せ等を考えているのか、まず最初に町長にお伺いします。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 北村議員のご質問にお答えいたします。コロナ禍やウクライナ情勢に伴います物価高等の影響によりまして、農業経営が大変厳しい状況に追い込まれている、このことについては強く認識しております。本年2月には、新型コロナウイルス感染症拡大による主食用米の需要が急激に減少いたしまして、米価が下落したことで影響を受けた生産の農業者への支援策といたしまして、作付け面積1反歩当たり5000円の支援金を交付したところであります。280名余の申請がありまして、総額で1900万円程度の

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議会議録（2日目）

支援金を交付したところであります。また、先ほど北村議員からもお話があったとおり、昨日の会議で一般会計補正予算を可決決定いただいたとおり、農業者への支援策といたしまして販売農家及び農業法人へは1万円から10万円の枠の中で支援金を支出する、そしてまた畜産農家への支援も可決いただきました。今後の更なる上乘せにつきましては、国、県の動向、そしてまた町の財政状況を課案しながら対応を検討してまいりたいと考えております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） はい。今後の状況次第ではございますけれども、その中で町長の考えとしてはその中で考えていくというようなことですが、町全体の問題でございますので、担当課長の方からもその辺の回答をいただければと思います。よろしくお願ひします。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） はい。昨今ですね、足元では円安基調から円高方向へと戻りがあるというような動向もございます。いろいろ状況を注視しながら、国県の政策、それからJAさん等とも協調しながら状況変化をしっかりと見守っていきたいと思います。まずは昨日の予算をお認めいただいたものの執行をしっかりとやっていきたいと考えております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） はい。昨日ですね、補正予算でも可決されたわけでございますけれども、やはりそれはしっかりとやっていただいて、ぜひ農業者の支援を進めていただければと思います。実際に、畑専門で農業をやっている人や酪農家の飼料、その高騰は生活の大きな影響があると思っています。考えられる種子や苗、それから肥料、飼料この高騰に苦労していますのでしっかりとした支援の継続をすべきと思います。次に子育て支援についてお伺いします。町長は、報道では子育て世代に手厚く支援したいと抱負を述べていました。少子高齢化の中で現状から大変大事なことだと認識しています。町の第6次振興計画では、結婚から出産、子育ての切れ目のない支援の実施、子育てと仕事が両立できる環境の整備と記載されています。この件について町長は子育て支援をどのように具体的に考えていらっしゃるでしょうか。お伺いします。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） はい。子育て支援の強化充実につきましては昨日の会議冒頭でご説明させていただいたとおり、今後私が取り組むべき政策の大きな柱として認識しており

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議会議録（2日目）

ます。具体的には、保育園料あるいは学校の給食費あるいは医療費、それから高校生の通学定期券への補助などでありまして、これらについて現行もう既に一部は実施されている内容もありますので、それぞれの事業の内容をもう一回整理した上で、町が町としてできること、やらなければならないことを整理して上乗せ策を見定めてまいりたいと思います。なお先ほども申し上げたとおり、財政事情も大変厳しい電気代のこともありました。ということで、それらの状況も勘案しながら見定めていくということでもありますので、ご理解のほどよろしくお願ひしたいと思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 令和4年4月、つまり今年の4月から第一子に5万円、第二子7万円、第三子以上10万円を育児用品購入費用等で支援してはいますが、この経済的負担を軽減するためには物価高騰の中で更に上乗せということも考えたかどうかということで、このすくすく子育て支援事業、このようなものがどのように今進んでいるのかその辺をお伺ひしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長（柄澤 豊） それでは、私の方からお答えさせていただきます。子育て支援策につきましては教育委員会と住民福祉課が主担当となりますので、連携をして支援事業を進めているところであります。多くの支援事業がございます。当住民福祉課所管の主な支援策でございますけれども、保健予防係所管で乳幼児等の健康診査、育児相談、妊産婦であるお母さん、お父さんも含めた相談業務。それから各種予防接種事業等がございます。福祉係所管につきましても、福祉医療、乳幼児、児童、障がい者、母子父子家庭等の給付要件に該当される方への診療の自己負担額の一部助成、中学校修了前の乳幼児および児童を養育される方に支給する児童手当等、その他様々な支援策を講じています。すくすく子育て支援金につきましては、今まで出生の際に育児用品の購入等保護者の負担軽減を目的に一子3万円を助成しておりましたけれども、今年度から議員がおっしゃるとおり、第一子5万円、第二子は7万円、第三子以降は10万円に増額をさせていただいたところでございます。戸籍の窓口で出生の届出があれば、その場で申請手続きをしていただき、速やかに給付をしているところでございます。なお上乗せ支援のご提案でございますけれども、今年度の6月補正予算では国の物価高騰、子育て世帯生活支援特別給付金で非課税の18歳までの子育て世帯に5万円を給付。また、町単独では地方創生臨時交付金を活用しまして所得制限なしで子育て世帯に2万円の給付を実施しました。更に国では、子育て応援給付金事業について数日前の国会で2次補正予算が成立したものと思っておりますけれども、詳細はこれからになります。経済的支援で10万円相当の応援ギフト、または給付の事業があるものと見込まれています。担当課としては手厚い対応に努力をしておりますのでご理解をいただきたいと思っております。

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議会議録（2日目）

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） はい。担当課のほうで手厚く支援をしているというような内容でございましたけれども、更にですねいろいろと、先程からお話しました子育ての切れ目のない支援、これが一番だと思います。これが第6次振興計画に載っている訳ですから、この子育てと仕事が両立できる環境、そういう整備をしっかりとお願いしたいと思います。続いてですが以前にも質問したことがありますけれども、給食費の無償化について、町長の思いかと思えますけれども、これについては、教育委員会のほうではどのように考えているのでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤教育長。

■教育長（佐藤尚登） はい。給食費に関してお答えいたします。学校給食費無料化につきましては、当町の子育て支援全般の中の一つと位置づけております。その拡充強化を検討するにあたっては、当然のことながら財源の問題もあることから現時点ではですね、財政状況を踏まえて検討してまいりたいと考えているところです。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） はい。今、教育長の答弁で財政状況を考えてということでございますけれども、実際に給食費の材料費が相当上がってきているということでございますから、その中で材料費の上がっている物を予算内でやろうとすればもっと材料が少なくなってしまうと、そういうことも考えられるわけです。しっかりとですね、この給食費の無償化について、町長の思いでもありますので考えていただければと思います。町長の思いの中に高校生に、しなの鉄道利用者に対する定期代の助成と、先程町長の答弁の中にもありましたけれども、通学定期運賃については20パーセントの助成をされていますけれども、この物価高騰で家計が苦しい中、今後この更に助成する考えというものどようになっているのかお伺いします。

●議長（佐藤武雄） 佐藤教育長。

■教育長（佐藤尚登） はい。通学定期代の補助は、平成27年に北陸新幹線が開業した際に長野以北の信越本線長野、妙高高原間の経営をしなの鉄道が引き継いだ際に運賃が引き上げられました。それを契機にこの制度を始めたところです。北しなの線は多くの学生が通学に利用しており、保護者負担の軽減として現在、議員ご指摘のとおり20パーセントを補助しています。これまでに消費税率の改定に伴って運賃も上がっておりますので当然家計への影響が大きいことは承知しています。また、地域の活性化のためには地域交通は通学通勤等、人々の生活を支えていく大切なものですし、次世代を担う子ども達への支援の一つとして考えていますので、財政状況に配慮しながら検討してまいります。

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議会議録（2日目）

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） ぜひ検討をしていただければと思います。この信濃町から長野の高校へ通学するというようなことは雪の降った日などはとても本当に大変だと思います。少子高齢化の課題もございますけれども、信濃町から通学する生徒が増え、しなの鉄道を利用してもらうようなことをもっとしっかりと考えていくべきだと思っています。子育て支援にもこの財源が本当に懸念があります。結婚から妊娠、保育園、小学校入学等子育て支援をしっかりと行い、町長の最初の話にもありますが自然豊かな信濃町に住んで良かったと思えるような、そして信濃町を「好き」と思ってくれる割合をぜひ増やしていただきたい。長期振興計画では、令和5年度に55パーセントの、こういう信濃町を「好き」と思ってもらえる人をといった考え方ですが、ぜひそういう支援をしっかりとお願いしたいと思います。続いての質問でございます。町長の行政改革の基本姿勢です。信濃町にはいくつもの、町所有の施設があります。消防の詰め所なども含めると100以上あると思います。少子高齢化が進み、また施設の経年劣化も進み修繕費用、まあ改修費用も計上されています。中学校の統合、それから小学校の統合が現在は信濃小中学校として対応しています。また、社会教育では大変重要な施設ですが、この事業もあり、公民館も4支館あり、今後どのように管理していくのか、また当面は改修等して維持していくんでしょうけれども、人口減少があり大変厳しいものが予想されます。令和2年3月作成の信濃町公共施設個別施設計画では、公共施設の健全度が著しく低い施設等が記載されています。今後のあり方等を検討することが求められていると思います。古い建物では病院が新築となり建設となりましたが、今後この役場庁舎や保健センター、ふれあい広場など老朽化が進んでいます。また、下水道施設の費用も膨らんできています。この辺について、今後の考え方についてお伺いします。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） はい。個別計画のお話も出たので具体的な計画、私のほうでお答えさせていただきたいと思います。今、議員がおっしゃったとおり、町では公共施設計画また個別計画というものを立ててございます。今お話のとおり、個別計画は令和2年3月に策定をさせていただきました。今現在、町が保有する施設というのが116施設、総床面積で7万6800平方メートルということで、人口一人当たりに対しますと、一人当たり6.8平方メートルという、たいへん高いものとなっております。これは近隣市町村と比べても高いものとなっております。またその施設の建築年数でございますが、30年を超えるものが62.9パーセントと、老朽化が著しいという状況でございます。仮にこれらの施設すべてを耐用年数に応じて建て替えを行った場合、今後40年間で総額275億円かかるということが見込まれております。そのために平成28年3月信濃町公共施設等総合管理計画を策定させていただきました。今後40年間の公共施設の総延床面積を12パーセント縮減させると、また建て替えから長寿命化へのことを行うことで更新コストを113億圧縮する、削減する目標を立てました。その具体的な施

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議会議録（2日目）

設の縮減計画が先程お話ししました個別計画のほうに記載されているという状況です。これらの基本的な方針を元に維持管理コスト、また長寿命化や統廃合、民間の活力の導入などを行っていく中で、適正化に進めてまいりたいと今、考えているところでございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） はい。だいぶ分かってきました。施設も116ということで、大変数が多いと思っております。その中で少しずつですがそういうものも改修していかなければならないと思っております。議会の、全員協議会の中で保育士が不足して保育園の運営に支障が出そうとの教育長からのお話がありました。先日は、保育士の募集広告のチラシも配布されました。隣の飯綱町では公立は旧三水村と旧牟礼村の2箇所で行っています。4つの保育園を運営上たいへん厳しいのかと思っておりますが、今後どのようにしていくのか、子育て支援を充実するといったときにこの辺の矛盾とはないのかどうかお伺いしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 佐藤教育長。

■教育長（佐藤尚登） お答えいたします。現在、ご存知のとおり信濃町は4つの保育園で、4園体制で運営しています。これを継続する上での課題としてあるのが、最大の課題は人材、人材と申しますのは保育園の運営には保育士だけではなくて栄養士であるとか給食調理員も必要になりますので、それを含めて人材と申し上げますが、人材確保、とりわけ保育士の確保が課題であります。これは当町のみならず、全国的に深刻な状態が続いているわけですし、ご存知のとおり、国の基準がありまして保育園では年齢に応じて保育士一人当たりが担任できる園児の数は決まっています。未満児保育の希望が最近、大変増えていますので、当然それを受け入れるということになると更に保育士が必要になるという、そういう状況があります。一方で、その保育士、4園体制を維持する上で必要なのは、保育士を中心とした人材確保だけではなくて、現在信濃町の保育園の運営上課題になるのは、一つは、先ほど総務課長のほうからも言及があった、具体的に保育園とはありませんでしたけれども、保育園の施設の老朽化がございます。こういうことを総合的に考えると、いずれかの段階で判断をしなければいけないと思っておりますが、当然これは大変町にとって重要な課題ですので、一方的に私どもがこのようにするというふうなことではなくて、町民の皆さんのご理解を得ることをしながら、展望を開いていきたいと考えております。失礼しました、ひとつ落としました。課題として老朽化に加えて、ニーズが多い未満児保育のスペース自体がなかなか確保できていないのです。にも関わらず全体として園児は減っていくわけですね。全体として園児は減っていくのだが、未満児の保育ニーズは高い、そしてその未満児のためのスペースが現状必ずしも十分ではないということも課題と認識しているところです。難しい課題ではあるのですが、皆さんのご理解を得て進めていきたいと考えているところです。

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議会議録（2日目）

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） はい。大変難しい課題だと思います。少子高齢化ということで子どもさんは減っていくのに未満児の一部はどうしても必要ですから、そういうものがなければなりません。この保育園の運営というのは、大変厳しいものと思っております。この未来に向かってですね、次の世代に負担を減らしていく、こういうことが大変重要ではないかと思っています。ちょっと質問が前後しますがけれども、公共施設の維持管理、更新、相当な費用がかかるわけです。平成26年から平成30年の5年間の公共施設の施設関連経費は、年平均約2億円というような数字が出ていました。先ほど総務課長の答弁にありましたけれども、平成28年に策定され、令和4年に改訂された公共施設等総合管理計画では、公共施設状況調査で人口に対しての面積の割合が掲載されています。令和元年の町の人口一人当たり公共施設の面積が6.8平方メートルと。全国平均が3.7平方メートルで、長野県平均が5.1平方メートルと比べると、信濃町は大変大きい値だなどと思っています。この総合的かつ、計画的に管理する必要があると思っています。この計画に記載されていましたがけれども、常に町民が安心して公共施設が利用できるよう、日常的、定期的に点検、維持管理、保全等計画的に遂行し、長期的な視野で更新統廃合等あり方を検討すべきと思います。参考例ですけれども、財政破綻した北海道夕張市の例は、住民に相当な負担があります。考えられる限りの緊縮財政で対応されています。ネット情報では信濃町のちょっと似ているところがありまして、今、人口は7000人くらい、世帯は4000ほどで市民病院はもう診療所です。小学校は1箇所、中学校も1箇所、人口減少が進んでいます。信濃町も大変厳しくなっていると思っています。財政破綻とならないよう、しっかりと考えるべきではないかと思っています。次の質問です。その中で、新病院を今後建設していくわけですがけれども、財政展望は大変厳しいものがあると思います。病院会計は、一般会計から毎年繰入を行いながら経営しています。これからもそのように対応していくのでしょうか。その辺についてお伺いしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 丸山病院事務長。

■病院事務長（丸山茂幸） はい。今後の病院事業の繰入のご質問でございますが、病院事業につきましては、地方公営企業法により財政規定の適用を受けて予算化し実施しているところでございます。地方公営企業法による件につきましては、原則、独立採算制を求められていることではございますが、一方で地方公営企業法の中の規定の中では特定の条件を満たす経費につきましては所管する自治体が公営企業への繰出しを経費として負担することが規定されているところでございます。当院も地域の基幹病院として小児科、救急医療、また過疎地域であるへき地といえますか、地域医療を担っている中で、民間ではなかなか採算性が取れない困難な医療を担っているといったこともございますので、それを踏まえた中で毎年繰入を町の方からいただいているところでございます。この繰入の基準につきましても総務省でルール化がされておきまして、病院の建設改良に関する経費も対象項目になっております。今後もその基準に沿って経営、繰

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議会議録（2日目）

入をしていただけるということで計画しているところでございます。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 実際はですね、一般会計から繰入を行うということになります。それよりも、病院の経営強化、そういうところが必要ではないかと思うのですが、どのように対応していくのか。住民にもっとこの辺については周知していくべきではないかと思うのですが、その辺についてはいかがでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 丸山病院事務長。

■病院事務長（丸山茂幸） はい。病院の経営強化についてのご質問でございますが、公立病院の経営強化につきましては、国全体で求められているところもございます。令和3年度総務省の方から具体的に公立病院経営強化ガイドラインというのが示されまして、その経営改善に向けた指針に基づき公立病院の経営を改善。当院もそれに基づいて令和5年度を目標に指針を策定していこうということで今、進めているところでございます。そのガイドラインの主な具体的な内容につきましては、医師、看護師の働き方改革、また新興感染症の拡大に備えた体制づくり、もう一つが病院間の役割分担による医療従事者の派遣等による連携強化というのがガイドラインの中で示されております。当院も現在、長野地域管内の医療圏の中で医師の派遣を受けながら経営をしているところでございますが、具体的には今後病院の指針を作っていく中で、当病院単独だけではちょっと対応できませんので、今後県の方が主体として病院間の調整会議を進めるというお話も聞いておりますので、その状況につきましては病院間の連携が話しが進めば、また適切な時期に町民の皆様にお伝えしていかなければいけないと思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） はい。病院間の連携等もやはりこれから多分必要になってくると思います。県が主導でやっていられればそれを中心に、ぜひとも経営強化に向けて対応していただければと思います。この町の、住民のですね医療福祉の拠点、それから新病院の財政展望は、やはり財政圧迫の懸念というのはだいぶあると思っております。こういうことに、将来、先ほど町長の答弁の中に、明るい未来は大丈夫です、みたいな話があったと思うのですがけれども、これは大丈夫でしょうか。町長にお伺いして質問を終わりたいと思うのですがいかがでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） はい。信濃町の将来は大丈夫かということであります。特に信越病院の建て替えに関しましては多くの方々から様々なご意見を頂戴しておりますが、それ

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議会議録（2日目）

は新しい病院に対する期待の表れかと私は考えております。その、町民の皆さんの期待に応えていくためには、これまで行ってまいりましたシミュレーションの結果、あるいは現時点で考えている病院経営の在り方、現状、こういったものを、広く町民の皆さんに情報提供いたしまして、こんな状態になっている、こんな方向へ向かっていきたい、そのようなことをお伝えする中で、町民の皆さんの懸念を払拭していきたいと考えております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） はい。そういう情報をしっかりと伝達、またはいろいろな機会を捉えて伝えていくことがたいへん重要ではないかと思えます。そういう点では、財政再建団体というようなことにならないように、しっかりと舵取りをやっていただいて、この財政のしわ寄せが住民に来ないように検討していただければと思います。以上で質問を終わります。

●議長（佐藤武雄） 以上で、北村富貴夫議員の一般質問を終わります。この際申し上げます。昼食のため、午後1時まで休憩といたします。

（終了 午前11時29分）